

令和4年度 第1回男女共同参画推進審議会に係る事務局からの概要説明について

新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、事務局からの説明時間をできるだけ短縮することにより、審議会開催時間の短縮を図ります。そこで、案件1～3の昨年度の事業状況についての事務局からの説明内容を事前にとりまとめましたので、ご一読ください。

なお、とりまとめ内容は、主要項目をピックアップしたものとなっています。

1 「第2次茨木市男女共同参画計画（改訂版）」の推進状況について（資料1）

□「第2次茨木市男女共同参画計画（改訂版）」推進状況報告書（案）について

当資料は、「第2次茨木市男女共同参画計画（改訂版）」の進捗状況を把握し、今後の取組の参考とするため、当計画で設定している8つの基本目標ごとに実施している事業状況をとりまとめたものです。

□成果指標（資料1（施策の体系の次のページ））について

- ・平成29年度から令和3年度の各年度の実績値と、「計画期間（平成29～33年度）の取組で得られた成果を踏まえた評価」の欄を新しく追加しています。
- ・2020（R2）年度と比較して、値が
 - 上向きになった項目が9（番号1, 3, 7, 11, 13, 15, 19, 21, 22）
 - 下向きになった項目が6（番号2, 8, 9, 12, 20, 23）
 - 横ばいの項目が1（番号14）

□市の審議会等における女性委員の割合について

- ・「審議会等構成員数一覧表」（資料2）により、審議会ごとの女性割合をお示ししています。
- ・令和2年度と比較して、女性委員の割合は減少しています。

□平成29年度～令和3年度の推進状況について（資料3、資料4）

- ・資料3は、目標年度である2021（R3）年度と計画策定時・目標値とを比較した一覧で、右端に評価を矢印でお示ししています。
- ・資料4は、2次計画（改訂版）策定からの5年間の推進状況をまとめたものです。以下、資料4に基づきご報告します。

《基本目標1》について

- ・指標1 市の審議会等における女性委員の割合

令和元年度に一度落ち込みましたが、その後は年々増加し、令和3年度には35%を超えました。計画策定時から3.6%の増となっています。目標値の40%には達していませんが、北摂各市で比較すると、女性割合は最も高く、府内では2番目です。

目標値に達していない理由として、次のようなことが挙げられます。

- ①団体選出の委員について、女性の推薦を依頼しているものの、女性が選出されてこない。
- ②公募委員に女性の応募がなかった。

③その分野に女性人材が少ない。 など

・指標2 市の管理職（課長級以上）における女性の割合

年々増加していましたが、定年前に退職するケースもあり、令和2年度以降は減少しています。係長級の女性割合は増加しつつあることから、女性の管理職への積極的登用を継続することにより、将来的に課長級以上の女性割合も増えていくことが見込まれます。

・指標3 市立小・中学校長・教頭における女性の割合

女性管理職の推薦について、人物を特定して学校長に推薦依頼するなどの取組みにより、年々増加しています。

《基本目標2》

・指標4 賃金や待遇で「男女が平等になっている」と感じている人の割合

計画策定時の意識調査結果からほとんど増加しておらず、男性では減少しています。女性と男性との割合の差は今回の方が少し縮まっています。

《基本目標3》

・指標5 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を知っている・聞いたことがある人の割合

男女とも目標値を達成しています。

・指標6 「仕事」「家庭や地域活動」「個人の生活」など、現実と希望が一致した暮らし方をしている人の割合

男女とも計画策定時の意識調査結果からは10%以上増加しましたが、目標値には達していません。

・指標7 市における男性職員の「育児休業」取得者率

計画策定時から大幅に増加し、目標値を達成しました。育児休業取得対象者への人事課からの声かけ等の取組みの成果が出ているものと思われます。

・指標8 パパ&ママクラスの参加率

令和3年度を除くと、90%以上の水準で推移していますが、令和3年度はオンライン講座にしたところ、参加率が減少しました。令和2年度までは沐浴演習などの体験型の内容としていたことから、パートナー参加率も高かったものと推測されます。

《基本目標4》

・指標9 乳がん・子宮がん検診受診率

受診率は低い割合で推移しており、計画策定時よりも減少しています。特に、令和2年度以降は大幅に減少しており、コロナ禍であることが影響していると思われます。

《基本目標 5》

- ・指標 10 「デートDV」という言葉を「よく知っている・聞いたことがある人」の割合
計画策定時の意識調査結果からは大幅に増加しましたが、目標値には達していません。
- ・指標 11 女性に対する暴力防止の啓発や講座の実施回数と参加人数
令和元年度以降、実施回数は目標値に達していますが、参加者数は令和2年度以降特に少なくなっています。コロナ禍であることも影響していると思われます。
- ・指標 12 子ども・若者へのデートDV防止啓発や講座の実施回数と参加人数
学校からの出前講座の依頼が少なく、実施回数・参加人数とも目標値には達していません。

《基本目標 6》

- ・指標 13 自治会長における女性の割合
年度によって差がありますが、目標年度である令和3年度は目標値を達成しています。
- ・指標 14 地域子育て支援拠点事業の実施数
令和元年度に目標値を達成しました。
- ・指標 15 自主防災組織の方針決定過程への女性の参画率
防災女性リーダーの育成や自主防災組織女性部会のワークショップ等の取組みにより、年々増加しています。各地区での女性の登用も増えてきていることから、今後さらに参画率が上がっていくことが期待されます。

《基本目標 7》

- ・指標 16 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の考え方に「反対・どちらかといえば反対」という人の割合
男女とも計画策定時の意識調査結果から大きく増加しました。目標値には達していませんが、男女の意識の差は縮まっています。
- ・指標 17 社会の慣習やしきたりで「男女が平等」と感じている人の割合
計画策定時の意識調査結果と比較して、女性は微増、男性は減少しており、目標値には達していません。男女の意識の差は縮まっています。
- ・指標 18 自治会などの地域活動で「男女が平等」と感じている人の割合
計画策定時の意識調査結果から大きな変化は見られず、目標値には達していません。

- ・指標 19 ローズWAMの男女共同参画に関する図書等の貸出冊数
計画策定時以降、目標値には達していません。特に令和2年度は新型コロナウイルス感染症による施設の利用制限をした影響もあり、貸出数が大きく減少しました。

《基本目標8》

- ・指標 20 男女共同参画社会推進登録団体数
令和2年度以降、団体数が減少しています。高齢化により存続が困難なケースや後継者が育っていないことが主な要因と考えられます。
- ・指標 21 男女共同参画に関する講座の実施回数と事業に参加した子どもの人数
実施回数、参加人数とも、低い水準で推移しており、目標値には達していません。令和2年度以降は特に新型コロナウイルス感染症の影響で回数や参加人数が減少しています。
- ・指標 22 再就職セミナーや女性のためのスキルアップ講座の実施回数
計画策定以降、目標値には達していません。
- ・指標 23 男性の生活能力向上のための講座や事業の実施回数と参加人数
計画策定以降、参加人数は減少傾向で、目標値には達していません。実施回数は新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度・3年度は大幅に減少しています。

2 茨木市立男女共生センターローズWAMの事業概要について（資料5）

- ・毎年度、茨木市立男女共生センターローズWAMの事業概要を取りまとめた冊子を作成しており、当資料は令和3（2021）年度版です。
- ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い休館または利用人数の制限を行いました。対面とオンラインを併用することによって、コロナ禍においても講座等による啓発を継続して実施しました。
- ・また、施設のDX化を進める取組として、令和3年4月からフリーWi-Fiの運用を開始しオンライン講座や会議で活用いただいたほか、ほぼ全ての事前申込が必要な講座等において電子申込を開始し、利用者の方の利便性向上に努めました。

3 配偶者暴力相談支援センターの事業概要について（資料6）

- ・令和2年度と比較すると相談の総件数の合計は減少していますが、ご本人からのご相談は面接・電話相談ともに少し増加しています。ただし、実人数としてはほぼ変化がないところから、問題が複合的であったり、継続的な支援の必要な方が増えている傾向がうかがえます。

案件1～3の説明概要につきましては以上です。